

岡山県感染症週報 2023年第18週 (5月1日～5月7日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染症法の位置づけが変更となりました

発生動向の把握が、これまでの新型インフルエンザ等感染症としての『全数』把握から、2023年5月8日以降は5類感染症としての『定点』把握へ変更となりました。
変更後の発生状況の情報は、第19週の週報(5月19日発行予定)から掲載いたします。

◆2023年 第18週 (5/1～5/7) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第16週 5類感染症 梅毒 1名 (20代 男)
 第18週 2類感染症 結核 6名 (50代 女 1名、80代 男 2名・女 2名、90代 女 1名)
 5類感染症 梅毒 1名 (40代 男)
 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 594名

新型インフル
エンザ等感染症

0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
31	85	71	70	97	100	57	54	24	5

※ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の2023年5月8日公表分 (5月7日に医療機関から報告) は173名です (速報値)。

子どもの予防接種
を確実に!



©岡山県「ももっち」

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)** は、2023年第18週に594名の報告があり (第17週は617名)、県内での2020年からの累計報告数は494,040名 (2023年5月8日公表分173名 (速報値) を含めると494,213名) となっています。詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
- 梅毒** は、2023年第18週に1名の報告があり、2023年の累計報告数は78名となりました (2022年の同時期: 49名)。2022年の年間報告数は県内で197名、全国で13,226名 (2023年3月18日時点) であり、1999年の感染症法施行以降で最多でした。特に全国の年間報告数は従前の最多数を大幅に超えました。2023年の全国の発生状況は、第17週までの累計報告数が4,699名 (2023年5月8日時点) であり、最多であった2022年の同時期: 3,457名を上回っています。今年も全国、県内共に、前年をさらに上回る勢いで報告があり、注意が必要です。詳しくは[コラム「梅毒\(性感染症\)に気をつけましょう！」](#)をご覧ください。
- インフルエンザ** は、県全体で145名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり2.60 → 1.73人)。岡山県は「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、真庭地域 (3.67人)、備北地域 (2.33人)、備前地域 (2.20人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[『2022/23年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!』](#)」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★★	RSウイルス感染症	↘	★★
咽頭結膜熱	↗	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★
感染性胃腸炎	↘	★★	水痘	↗	★
手足口病	↘	★	伝染性紅斑	↗	
突発性発疹	↗	★	ヘルパンギーナ	↘	★
流行性耳下腺炎	↘		急性出血性結膜炎	↗	
流行性角結膜炎	↘	★	細菌性髄膜炎	↗	
無菌性髄膜炎	↗	★	マイコプラズマ肺炎	↗	
クラミジア肺炎	↗		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗	

【記号の説明】 前週からの推移: ↑: 大幅な増加 (大幅: 前週比100%以上の増減) ↗: 増加 (増加・減少: 前週比10~100%未満の増減) →: ほぼ増減なし ↘: 減少 ↓: 大幅な減少

発生状況: 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)

空白: 発生なし ★: わずか ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

今週の注目感染症

★新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空气中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。予防接種が進められていますが、5月8日から接種の進め方が変更となりました。詳細は岡山県ホームページ『[新型コロナウイルスワクチンについて](#)』を参照ください。

●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株など）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本における COVID-19 妊婦の現状（日本産科婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。なお、り患後症状（いわゆる後遺症）については、こちらをご覧ください。→ [罹患後症状のマネジメント・第2.0版（2022年10月14日発行）](#)

●報告方法について

2022年9月26日から全数把握の方法が変更されました。全数届出対象者は65歳以上の者等に限定され、対象者以外は検査キット陽性者登録センター等への登録制になりました。なお、2023年5月8日以降は5類感染症としての『定点』把握へ変更となり、変更後の発生状況の情報は、第19週の週報（5月19日発行予定）から掲載予定です。

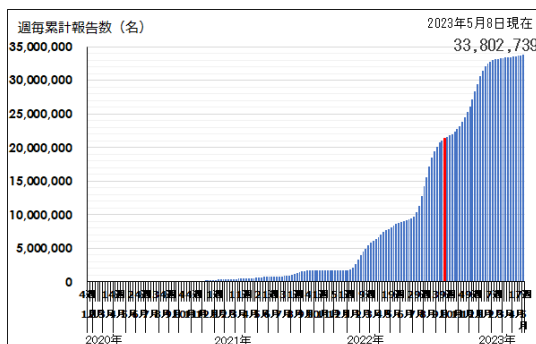
●発生状況

（2023年5月8日より定点把握へ移行し、全数把握の最終の公表が5月8日となったことから、第17週週報（5月10日発行）とコメントおよび一部のグラフは同一となります。）

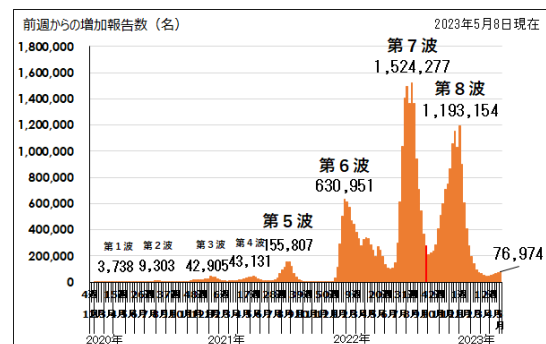
・全国

2023年5月8日までで、国内感染者は累計で33,802,739名、国内死亡者は74,669名、また、同時点における重症者は80名となっています（厚生労働省ホームページより）。

全国の新規感染者数は、昨夏の感染拡大（第7波）前の水準を下回る状況が継続していますが、下げ止まりの後、緩やかな増加傾向となっています。重症者数も緩やかな増加傾向、死亡者数は横ばいとなっています。今後の流行状況について、過去2年の状況を踏まえ、5月の連休明けに拡大し、一旦減少の後に再度、夏に向けて感染拡大する可能性が指摘されています。大型連休における人流の活発化、ワクチン接種および感染により獲得した免疫の減衰、変異株の置き換わりの状況等の影響もあり、引き続き注意が必要です。

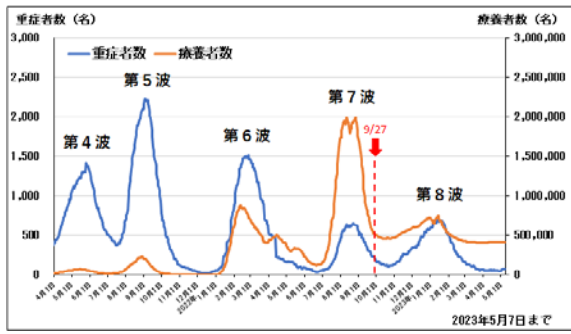


全国 週毎累計感染報告数 厚労省 HP より
(2023年第18週まで(～2023/5/7))

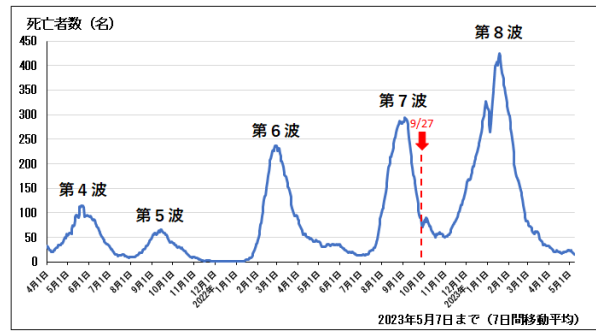


全国 週毎増加感染報告数 厚労省 HP より
(2023年第18週まで(～2023/5/7))

※全数把握方法が変更された2022年第39週の報告数は赤で表示



全国 重症者数・療養者数の推移
(厚生労働省オープンデータより(2023年5月7日まで))



全国 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2023年5月7日まで))

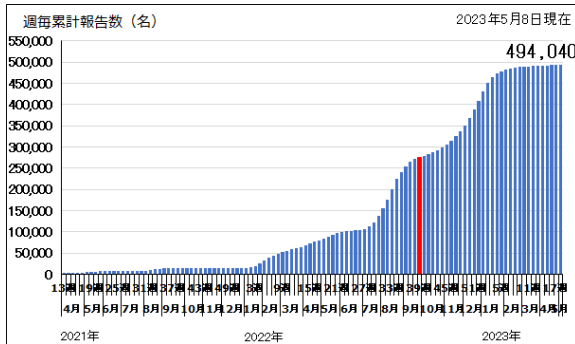
全国(岡山県含む)の直近の年代別新規陽性者関係の情報は次をご覧ください。

[第121回アドバイザリーボード 資料2-2](#)

[〈参考〉過去の年齢階級別発生状況等ははこちら\(2022年9月20日まで\)](#)

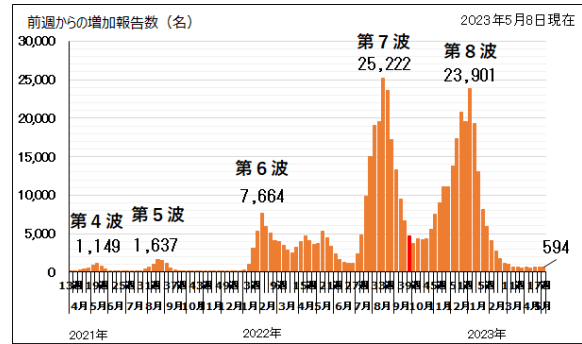
・岡山県

2023年5月8日までで、岡山県の感染者は累計で494,213名、死亡者は857名(5月2日～8日までの1週間で1名増加)となっています。高齢者施設・障害者福祉施設・児童福祉施設でクラスターが発生しています。直近1週間の新規感染者数は、緩やかな増加傾向を示しています。基本的な感染防止策(効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3密(密閉・密集・密接)の回避、健康的な日常生活、ワクチン接種、体調不良時の備え)に留意し、自主的な判断により実施しましょう。詳細は岡山県ホームページ『[県民・事業者の皆様へのお願い\(4月20日改訂\)](#)』をご覧ください。

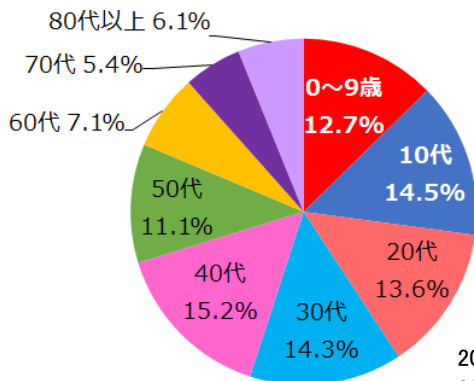


岡山県 週毎累計感染報告数(2023年第18週まで)

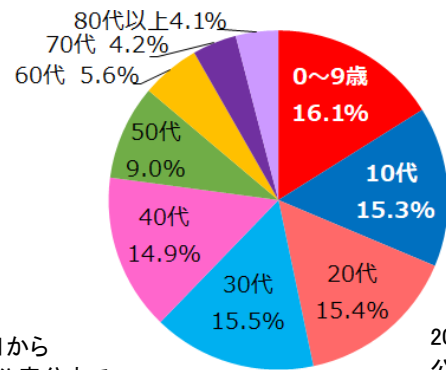
※全数把握方法が変更された2022年第39週の報告数は赤で表示



岡山県 週毎増加感染報告数(2023年第18週まで)

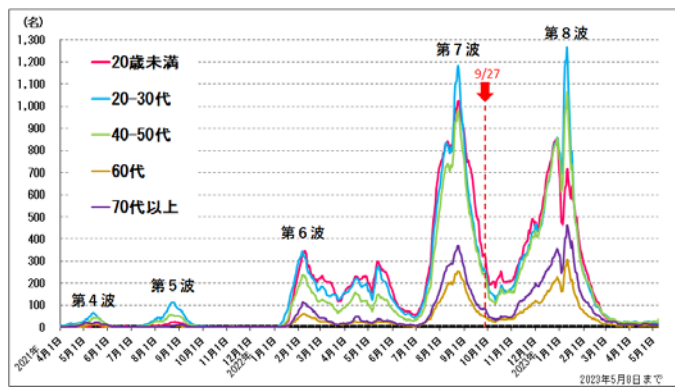


2022年9月27日から
2023年5月8日公表分まで

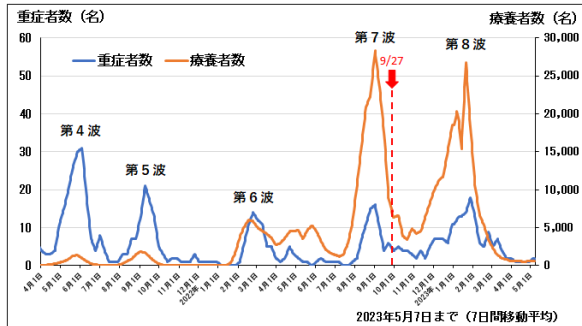


2022年9月26日
公表分まで

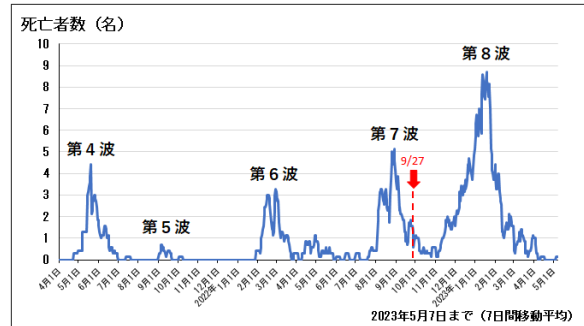
岡山県 年齢階級別累計割合



岡山県 年齢階級別発生状況(7日間移動平均、2023年5月8日まで)



岡山県 重症者数・療養者数の推移(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2023年5月7日まで))



岡山県 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2023年5月7日まで))

～ ダニの活動が活発になる時期です ～ ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)***、**日本紅斑熱**、**つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(ディートやイカリジン含有)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良の動物や野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 画像

＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

風しんの抗体検査（無料）を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群（CRS）*の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます](#)（岡山県健康推進課）

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています（**2025年3月31日まで**）。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

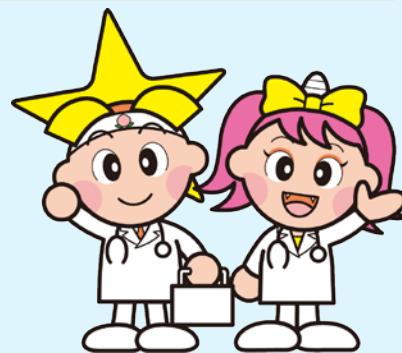
[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

3年間延長
されます！

岡山県の2019年4月～2023年2月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、33.6%と未だに低い状況です！
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！

[風しんの追加的対策について（厚生労働省）](#)
[風疹に関する疫学情報（国立感染症研究所）](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト（日本産婦人科医会）](#)



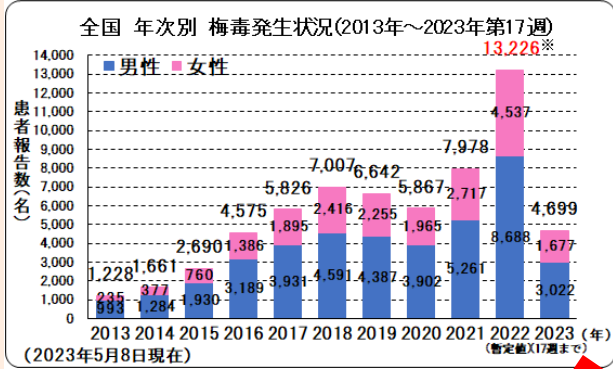
© 岡山県「ももっち・うらっち」

梅毒（性感染症）に気をつけましょう！

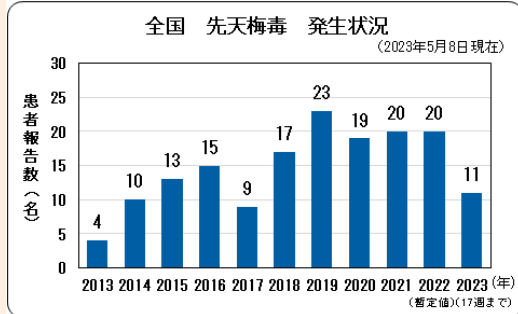
2022年の梅毒の患者報告数は、岡山県、全国共に1999年の感染症法施行以降で最多となりました。特に全国では従前の最多数を大幅に超えました。今年は前年をさらに上回る勢いで報告されています。[先天梅毒](#)の発生などに注意が必要な状況です。

☆梅毒等性感染症の症状・診断等の情報は[こちら](#) ⇒ [性感染症（国立感染症研究所）](#)

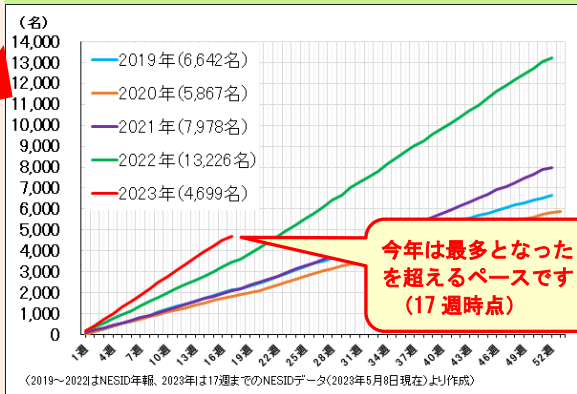
全国 年次別発生状況 (2013年～2023年第17週) 2023年5月8日現在



※男女別合計との差は情報不足の報告を含むことによる。

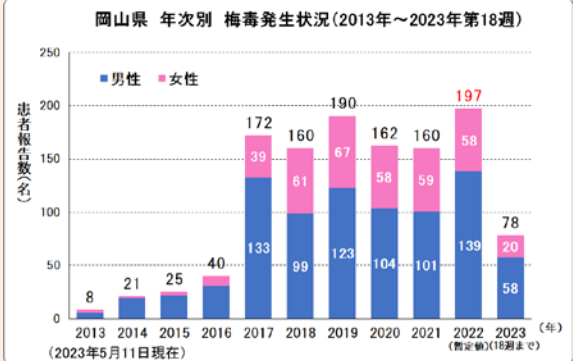


全国 年次別・報告週毎累積 (2019年～2023年) 2023年5月8日現在



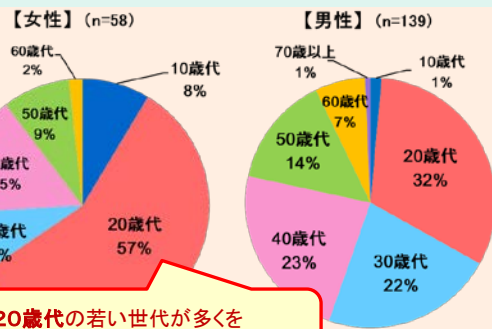
今年是最多となった2022年を超えるペースです！
(17週時点)

岡山県 年次別発生状況 (2023年第18週まで) 2023年5月11日現在



丘疹性梅毒疹(左)・梅毒性パラ疹(右)
日本性感染症学会 HP より

岡山県 性別・年齢階級別発生状況 (2022年) 2023年3月15日現在



女性は20歳代の若い世代が多くを占めています！(全国も同じ傾向です。)

岡山県の保健所・支所では梅毒等の性感染症検査を無料・匿名で受けることができます！

*岡山県の保健所(岡山市・倉敷市を除く)では、梅毒以外にもHIV・性器クラミジア・B型肝炎・C型肝炎の検査も同時に受けることができます。(岡山市・倉敷市の検査はこちら)

*確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3か月経過後に検査することをおすすめします。

*電話での事前予約が必要です。

*新型コロナウイルスの影響で中止となる場合があります。

○検査の日時などは[こちら](#) ⇒ [検査について知りたい・検査を受けたい\(健康推進課\)](#)

○梅毒予防動画は[こちら](#) ⇒ [梅毒対策\(健康推進課\)](#)



梅毒トレポネーマ
(国立感染症研究所 HP より)

インフルエンザ週報 2023年 第18週 (5月1日～5月7日)

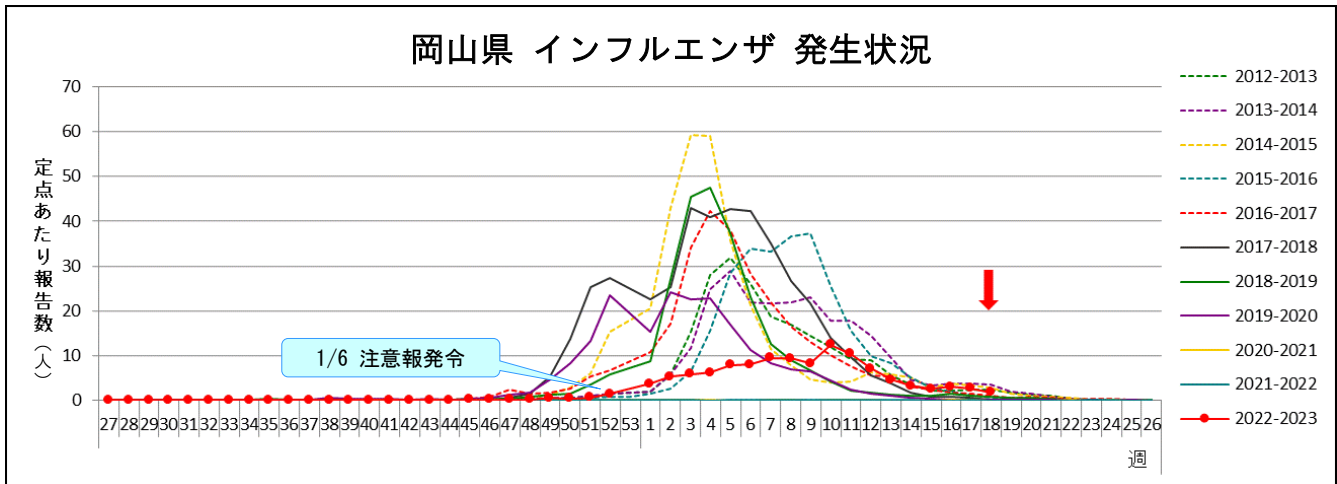
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で145名（定点あたり1.73人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が4施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者はありませんでした。

【第19週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が6施設でありました。



インフルエンザは、県全体で145名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり2.60 → 1.73人）。岡山県は「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、真庭地域（3.67人）、備北地域（2.33人）、備前地域（2.20人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況に注意するとともに、体調管理にも留意し、感染予防に努めましょう。

◆インフルエンザを防ぐため、ひきつづき感染予防に努めましょう◆

（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行も踏まえた対応をお願いします。）

【予防と対策】

- 基本的な感染防止策の徹底
 - ・状況に応じたマスクの着用、手洗い、手指消毒の実施
 - ・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入換え
 - ・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける
- 健康的な日常生活
 - ・十分な休養、バランスのとれた食事
- あらかじめの備え
 - ・インフルエンザワクチンの予防接種
 - ・新型コロナウイルス抗原定性検査キット（「体外診断用医薬品」もしくは「第一類医薬品」）や自宅療養に必要な解熱鎮痛薬等の購入



【発熱等の症状が出た時は】

- 外出を控える
 - 周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！
 - 水分を十分にとり、安静にして休養をとる
- ⇒ 詳細は岡山県ホームページ [『インフルエンザ対策について』](#) をご覧ください。

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	145	▲	備 中	患者数	22	▲
	定点あたり	1.73			定点あたり	1.83	
岡山市	患者数	31	▲	備 北	患者数	14	▲
	定点あたり	1.41			定点あたり	2.33	
倉敷市	患者数	18	▲	真 庭	患者数	11	▲
	定点あたり	1.13			定点あたり	3.67	
備 前	患者数	33	▲	美 作	患者数	16	▲
	定点あたり	2.20			定点あたり	1.60	

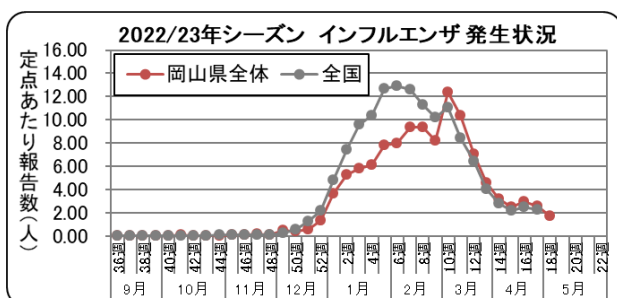
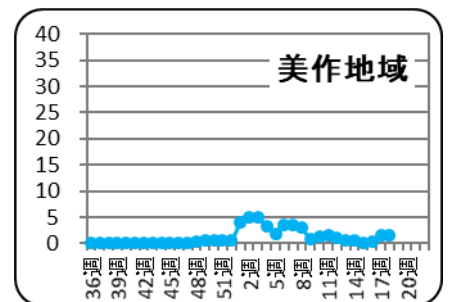
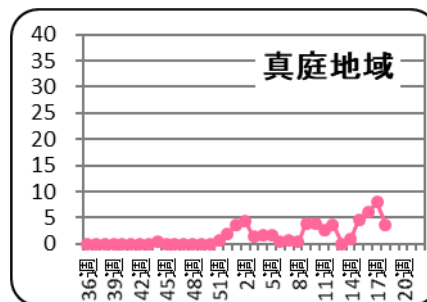
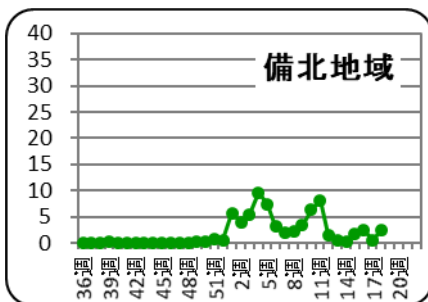
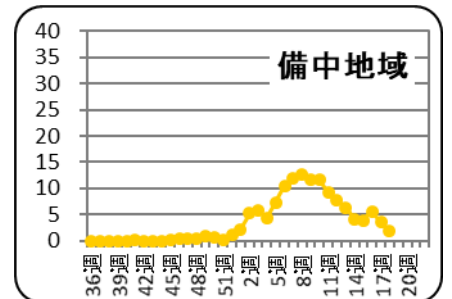
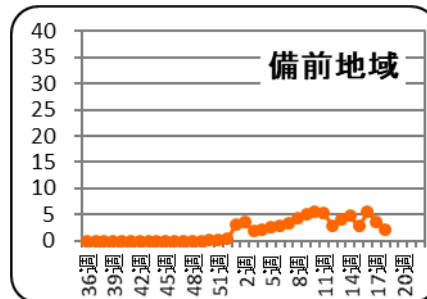
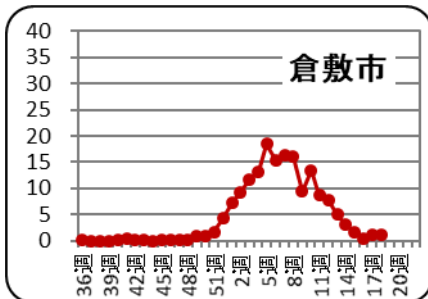
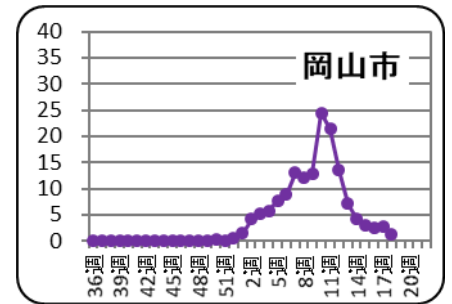
【記号の説明】前週からの推移 ▲：大幅な増加 ▲：増加 ➡：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ▼：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0

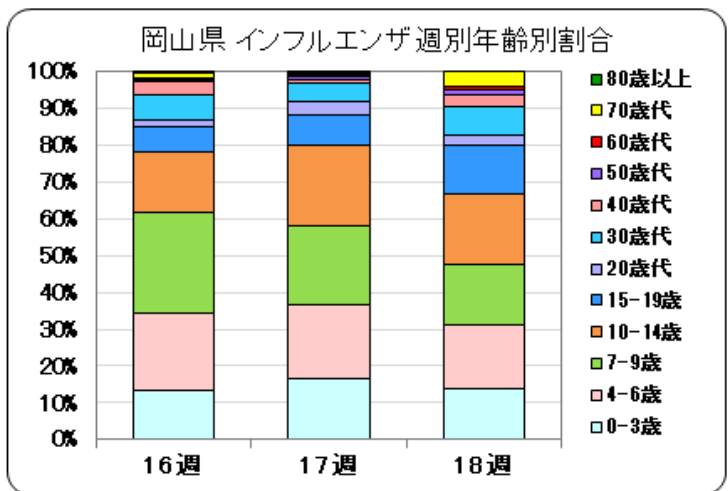
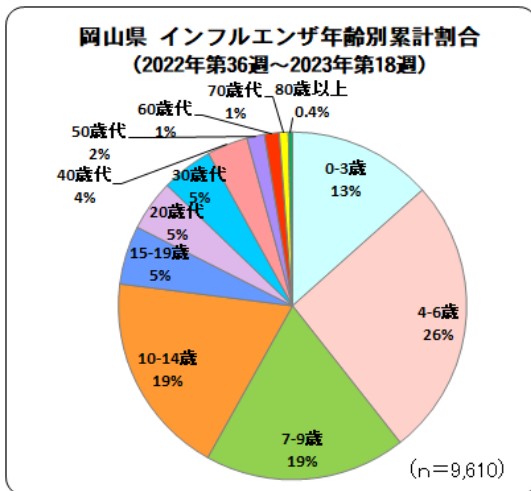


全国集計 2023 年第 17 週（4/24～4/30）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 2.24 人となりました。都道府県別では、新潟県（16.17 人）、山形県（9.05 人）、青森県（6.93 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。32 都道府県で前週の報告数から減少しました。

[インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）](#)

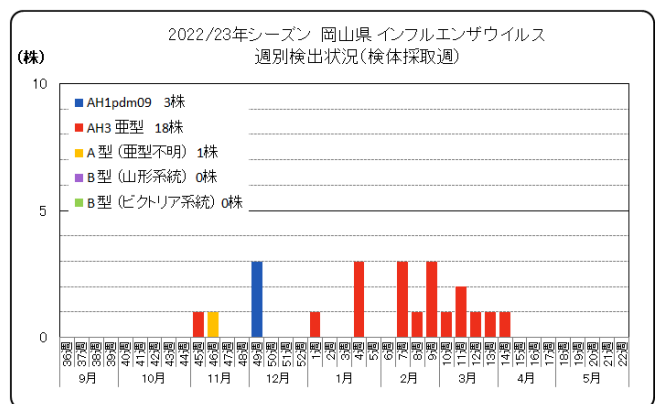
2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、以下のとおりとなっています。



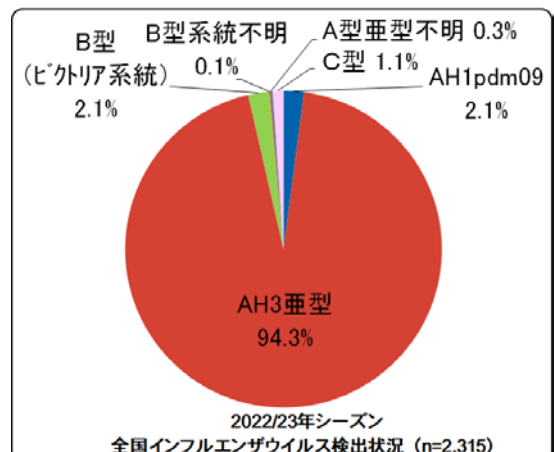
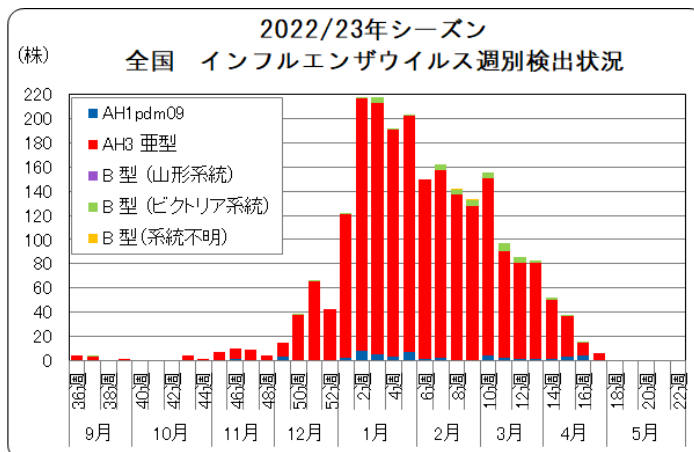
3. インフルエンザウイルス検出状況

2023年第18週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは22株で、その内訳は、AH1pdm09が3株、AH3亜型が18株、A型（亜型不明）が1株となっています。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が48株、AH3亜型が2,184株、B型（ビクトリア系統）が48株、B型系統不明が2株、A型亜型不明が8株、C型が25株となっています（5月11日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)

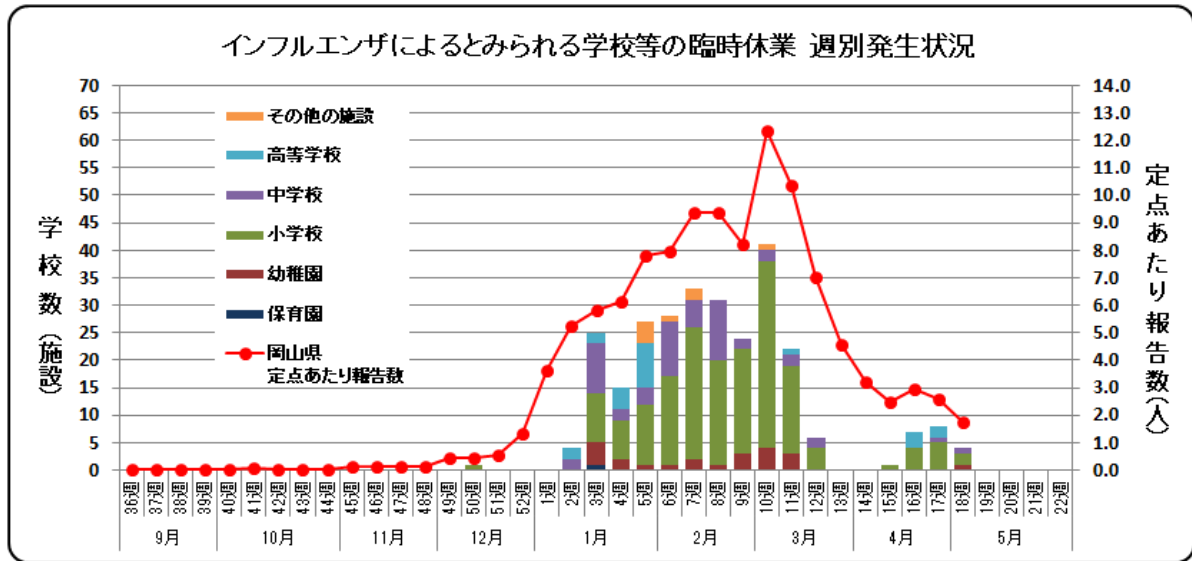


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、4施設でありました。

【第18週 臨時休業施設数】

▽岡山市 2 ▽倉敷市 1 ▽玉野市 1



1) 臨時休業施設数の内訳

第18週:4施設

累計:277施設

	保育園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	1	1	22	2	172	1	52	0	22	0	8

2) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

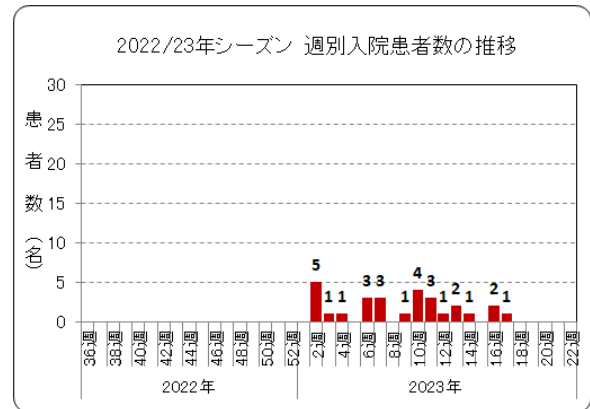
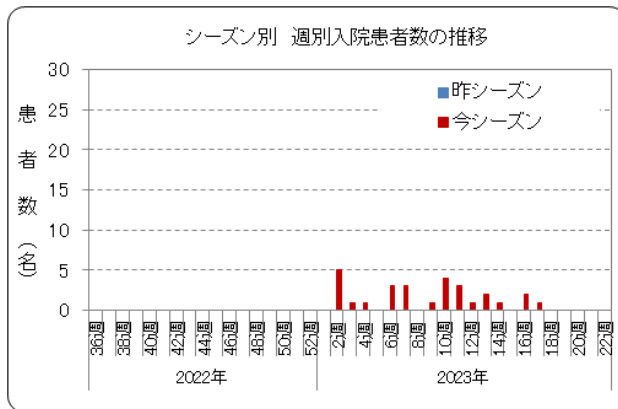
* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	41	4184	40	3662	4	277	0	6	2	53	2	218	R4.12.12
岡山市	22	1851	21	1648	2	117	0	1	1	8	1	108	R4.12.12
倉敷市	7	1089	7	950	1	76	0	1	1	8	0	67	R5.1.16
備前地域	12	240	12	219	1	23	0	1	0	9	1	13	R5.1.23
備中地域	0	709	0	589	0	37	0	1	0	14	0	22	R5.1.17
備北地域	0	37	0	34	0	3	0	0	0	1	0	2	R5.2.13
真庭地域	0	121	0	113	0	6	0	2	0	4	0	0	R5.3.6
美作地域	0	137	0	109	0	15	0	0	0	9	0	6	R5.1.17

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【2022年9月5日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	2	9	5	4				1	4	1		2	28
ICU入室*									1				1
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*									1				1
頭部MRI検査(予定含)*		4	3	1									8
脳波検査(予定含)*		1											1
いずれにも該当せず	2	5	2	3				1	2	1		2	18

* 重複あり

[インフルエンザQ&A（厚生労働省）](#)
[令和4年度 今冬のインフルエンザ総合対策について（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2023年 18週(定点把握)

(2023/05/01～2023/05/07)

2023年5月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	145	1.73	31	1.41	18	1.13	33	2.20	22	1.83	14	2.33	11	3.67	16	1.60
RSウイルス感染症	17	0.31	3	0.21	7	0.64	-	-	5	0.71	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	10	0.19	3	0.21	1	0.09	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	0.26	5	0.36	4	0.36	2	0.20	2	0.29	1	0.25	-	-	-	-
感染性胃腸炎	246	4.56	73	5.21	63	5.73	52	5.20	26	3.71	12	3.00	5	2.50	15	2.50
水痘	8	0.15	6	0.43	-	-	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	18	0.33	3	0.21	8	0.73	-	-	5	0.71	-	-	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	20	0.37	10	0.71	4	0.36	-	-	4	0.57	1	0.25	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	5	0.09	1	0.07	-	-	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	0.40	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2023年 18週(発生レベル設定疾患)

(2023/05/01～2023/05/07)

2023年5月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	145	1.73	31	1.41	18	1.13	33	2.20	22	1.83	14	2.33	11	3.67	16	1.60
咽頭結膜熱	10	0.19	3	0.21	1	0.09	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	0.26	5	0.36	4	0.36	2	0.20	2	0.29	1	0.25	-	-	-	-
感染性胃腸炎	246	4.56	73	5.21	63	5.73	52	5.20	26	3.71	12	3.00	5	2.50	15	2.50
水痘	8	0.15	6	0.43	-	-	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	18	0.33	3	0.21	8	0.73	-	-	5	0.71	-	-	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	5	0.09	1	0.07	-	-	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2023年 第18週 2023/05/01～2023/05/07)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	145	-	1	7	6	6	7	10	8	7	8	9	28	19	4	11	5	2	1	6	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	17	4	3	8	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	10	-	1	7	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	-	-	-	-	1	1	6	3	2	-	-	-	1	
感染性胃腸炎	246	4	28	46	29	15	16	24	17	7	9	5	15	4	27
水痘	8	-	2	1	-	1	1	-	-	-	-	2	1	-	-
手足口病	18	-	2	8	3	3	2	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	20	1	4	12	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	5	-	-	2	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

2023年 18週

分類	疾病名	2023		2022	疾病名	2023		2022	疾病名	2023		2022
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	6	75	247	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	8	66
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	4
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	4
	デング熱	-	-	3	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	1	9	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	11	47
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	4	10	ウイルス性肝炎	-	2	1	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	6
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	-	急性脳炎	-	4	10	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	5	後天性免疫不全症候群	-	-	6
ジアルジア症		-	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	4	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	5	22	水痘(入院例に限る。)	-	3	4	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		1	78	197	播種性クリプトコックス症	-	-	3	破傷風	-	-	3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	1	百日咳	-	11	17
風しん		-	-	1	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-
※	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	594	85,698	392,782		-	-	-		-	-	-

※新型インフルエンザ等感染症

